

平成 29 年度 大阪府立交野支援学校 第 1 回学校協議会 報告

1. 日時・場所	平成 29 年 6 月 26 日 (月) 午前 10 時から 11 時 50 分 本校会議室			
2. 出席者	【学校協議会委員】			
	高塚 良則	元大阪府立学校長		
	八尾 康典	交野自立センター所長		
	千原 義昭	交野市寺地区区長		
	田中 彰	四條畷市砂自治会長		
	森近 美子	大阪府立交野支援学校 PTA 会長		
	西田 由紀子	大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長		
	【事務局】			
	校長	藤野 洋子	准校長	松尾 光雄
	事務部長	仲辻 昌造	四條畷校教頭	河上 鉄男
	本校教頭	室田 澄江	四條畷校首席・中学部首事*	溝部 晃輔
	本校教頭	丹羽 はるか	四條畷校首席・高等部首事*	村上 智則
	本校首席	相馬 寿子	*公務のため欠席	
本校指導教諭・小学部首事	山田 恵子			
本校首席・中学部首事	大西 直子			
本校首席・高等部首事	西島 洋美			
3. 次第	<p>(1) 校長挨拶 (藤野校長)</p> <p>(2) 「学校協議会委員」および「事務局」自己紹介</p> <p>(3) 「会長の選出」と本年度の「学校協議会実施要綱」「学校協議会傍聴規則」の確認 ≪立候補により、会長に高塚 良則様が選出された≫</p> <p>(4) 本年度の予定</p> <p>(5) 本年度の「学校経営計画」(本校) 本年度の「学校経営計画」(四條畷校)</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) 准校長挨拶(松尾准校長)</p>			
4. 報告	<p>* ≪本校「学校経営計画」説明≫</p> <p>「めざす学校像」実現に向けての「中期的目標」を確認後、学校長が「今年度の具体的な取り組み内容」を写真映像を示しながら説明を行った。</p> <p>【中期的目標】 1. 安全安心な学校づくり</p> <p>(1) 「大災害時の対応マニュアル」の活用に向けての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対応マニュアル」を検証・見直しを行い、職員の役割分担を確認する。大災害を想定した実際の動きをシミュレーション(模擬訓練)する。 ・リスクマネジメントとして、事案予防、発生時の対応を教職員で共有する。 <p>(2) 安全安心な医療的ケアの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方法・チェック体制・フォロー体制、研修内容、薬剤管理、個々のマニュアルの活用など医療的ケア全般に関して検証し見直す。 ・高度化・多様化・複雑化した医療的ケアへの校内体制の再構築を実践する。 ・「学校における医療的ケア実施体制構築事業」のモデル校として医師と連携し看護師・養護教諭・全教職員で取り組み、成果と課題を発信する。 <p>(3) 人権に配慮した教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活のあらゆる場面で児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践。 ・児童生徒の情報の共有化システムを構築する。 ・人権教育のテーマ・重点目標をベースに授業を展開する。 			

【中期的目標】 2. 専門性の向上・個々の教育的ニーズに応じた取組み

- (1) 特別支援教育の専門性向上と授業力向上及び授業改善
 - ・授業づくり、実践、研究協議の流れに長いスパンで外部専門家を活用する。
 - ・授業デザインチームと研究部がけん引役となり各学部全教職員で授業力向上を実現する。
 - ・より専門的な外部研修を積極的に受講し、校内伝達研修を充実させる。
 - ・ICT活用の授業実践を発信する。
- (2) 自立活動における専門性向上に向けた取組み
 - ・外部人材を積極的に活用し、専門性向上のための取組みや検証を行う。
- (3) 自立活動における新しい取組みの充実
 - ・スパイダーやスノーズレン等を積極的に活用し、自立活動の指導を充実させる。
 - ・「学習指導要領」の観点から自立活動の指導内容・指導方法を再確認する。基礎基本に立ち返り、「なぜ」「何のために」を確認しながら実践を進める。

【中期的目標】 3. キャリア教育の推進

- ・全教員がキャリアプランニングマトリックスを参考に自立と社会参加に向けたキャリア教育を視点においた取組みを行う。
- ・開かれた学校として地域の教育力の積極的活用実践・新規開拓を行う。
- ・高等部の選択性コース授業についてキャリア教育に視点をおき充実させる。

【中期的目標】 4. センターの機能の充実

- ・センター的機能を肢体不自由教育に焦点化して全教職員で担う。
- ・居住地校交流・学校間交流をセンター的機能を発揮する機会として捉え、実践を校内外で発信する。

*** <<四條畷校「学校経営計画」説明>>**

「めざす学校像」をわかりやすい標語「つながり」「生き生き」「豊かな学び」として3項目にまとめ、未来を描く教育の実現をめざす学校経営を中心に説明を行った。新しく作成した学校案内についても紹介された。

【中期的目標】 1. 生徒と生徒がつながり、保護者・地域諸機関とつながる学校

- (1) 進路に関する教育
 - ・卒業後の進路に向けて実習先を確保し、巡回指導を充実させる。
 - ・職業コースを中心に就労につながる指導を行い、希望に応じた進路をめざす。
 - ・社会参加へ向けてのキャリア教育を充実させる。
- (2) 学校行事等の充実
 - ・体育祭、学習発表会において成功体験と共に生徒間の協力体験を引き出せる支援・指導を充実させる。
 - ・生徒会活動の中高連携をすすめる。
- (3) インクルーシブ教育の推進に向けた交流教育及び共同教育

【中期的目標】 2. 安全・安心な場を提供できる学校

- (1) 生徒のニーズに応じた生徒の健康支援
 - ・ニーズのある生徒に対しての体重管理を支援する。
 - ・医療機関・学校医と連携して生徒の精神面、身体面の助言を行う。
- (2) こころと身体の学習（性に関する指導）の充実
- (3) 生徒の人権を大切にする教育
- (4) 防災

【中期的目標】 3. 生徒のニーズに応じながら、豊かな学習を提供できる学校

- (1) 授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上
- (2) 教育施設設備及びICT教育環境の充実
- (3) チームによる校内支援及び地域支援の充実
- (4) 自立活動の充実
- (5) 広報・情報発信

5. 協議内容

* 災害時の対応について

- ・大災害時「対応マニュアル」の活用のため校内体制を充実させるとのことだが、外部機関、保護者への通信手段はどうなっているのか？具体的な地域との連携はどんなものを考えているのか？学校の耐震強度はどうか？が気になった。
- ・本校では校区6市の教育委員会・危機管理室・交野市役所等との連携を進めている。大災害時の保護者への通信手段としては「交野絆メール」の有効活用を考えている。今年度は、「交野絆メール」の登録率100%をめざして、泊行事の報告を現地から「交野絆メール」を活用して当該学年の保護者へ送信する等の工夫も行っている。また、夏季休業中に実施する全教職員での訓練でも、すでに作成している「保護者引渡しカード」を活用して、シミュレーションを行う予定。実際には地域のマンパワーに頼ることも想定されるので、近隣の学校とも継続的に交流を行い、相互理解を進めている。耐震強度はすべてクリアできている。
- ・寺地区としても要支援者の救助などの課題を抱えている。地域でお互いに連携を持つことは重要だと思う。
- ・福祉避難所としての役割に向けての対応も考えられるが、あらゆる災害を想定して子どもたちの安全な対応を考えていってほしい。
- ・四條畷校では、近隣のイオンモールの食料提供、四條畷市役所との連携を進めている。校内体制についても訓練を重ねて修正していきたい。
- ・四條畷市岡部小校区の災害訓練でも支援学校との連携を考えていきたいと思う。イオンモールの食料等の提供に関しても24時間の対応が限度だと聞いている。今後も防災連携を進めていきたい。

* 地域連携について

- ・支援学校から案内をいただき、何度か行事や卒業式等に参加して子どもたちの様子を見せていただいた。自分たちのやりたい気持ちを大切に、目標に向かって努力する姿を見て、「いろんな体験を通して、子どもたちが前向きに自立に向けてがんばっている様子」を感じることができた。今後も、このような取組みを継続し、子どもの意欲を引き出す教育を実践していってほしいと思った。
- ・障がいのある子どもを育てる中で「地域に積極的に出て行こう」というよりは、「迷惑をかけないように」という気持ちのほうが強かった。しかし、今回、地域の方のお話を聞き、地域の人にもわかってもらうことが大事だと思った。
- ・PTAとしても地域に向けた発信、つながりを大切にしたい取り組みが少なかったかもしれない。今後そのような視点でも考えていきたい。学校全体としても「開かれた学校」として北河内を越えて連携を進めていってほしい。
- ・学校からの発信としてホームページ等の活用が考えられる。また地域の方に向けて「高齢者等に活用できる介助の方法」を提供することもよいのではと思った。
- ・四條畷校のすぐ隣のフェンス越しに家庭菜園の畑があり、地域のシニアの方が関わっておられ、子どもたちに教えたいという気持ちを持っている方もいるように聞いている。ぜひ連携していけるよう声をかけてほしい。
- ・地域の教育力の活用（民生委員の行事参加・特別授業・地域の外国語講師の授業など）を進めている。今後とも力添えをお願いしたい。地域の方に「昔あそび」の授業をしていただいた時に「子どもたちと関わり、元気がでました。本当に楽しかったです」との感想をいただき、学校から返せるものの一番大きなものは、交野支援学校の子どもの生きざまに接してもらうこと、そのものだと感じている。顔を見て分かり合える、通じ合えるつながりを大切にしていきたい。

* 初任者や経験の浅い教員への指導について

- ・本校で14名、四條畷校で8名の初任者が採用された。
- ・学校組織として初任者等を育成していくシステムが大切だと考える。
- ・マニュアルだけでなく顔の見える関係作りが大切だと思う。様々なストレスを抱えることがあると思うが、心身共に健康に働ける環境づくりが大切だと思う。
- ・学校経営計画・具体的な取り組みを確認して二学期につなげていってほしい。